

ビデオ教材『映像で学ぶキャリア—日韓の学生が専攻言語を生かすために—』の制作と公開*

松崎真日**・磯野英治***・検校裕朗****
mmatsuzaki@fukuoka-u.ac.jp・hisono@nucba.ac.jp・kenko26@gmail.com

<要 旨>

本 연구에서는 한일 언어전공 학생의 커리어 지원에 특화된 교육용 비디오 교재 “영상으로 배우는 커리어-한일 학생이 전공 언어를 살리기 위해서”의 제작과 공개에 대해 보고하고, 그 성과를 널리 공유하는 것을 목적으로 한다. 일본과 한국은 정치와 문화에 있어 교류의 역사가 깊고, 일본에서 한국어나 한국 문화를 배우는 학생, 한국에서 일본어나 일본 문화를 배우는 학생도 예로부터 많다. 그러나 이 학생들이 졸업 후에 활약하기 위한 체계적인 진로 지원이 확립되어 있지 않다. 그로 인해 이 학생들은 스스로 노력해서 커리어를 개발해야 하는 상황에 처해 있다. 지금까지 마쯔자키·이소노·겐코(2019, 2020, 2021a, b, 2022)에서는 이에 대해 한일 언어전공 학생의 커리어 교육과 진로에 관해 실태 조사와 분석을 실시하였다. 아울러 학부에서의 전문교육에 커리어 지원을 도입하기 위한 교육용 비디오교재 제작의 의의와 이론적 연구, 시나리오 작성, 체계에 대해 논의하였다.

그리고 본 연구의 주제인 ‘한일 각 나라에서 배우는 한국어 전공·일본어 전공의 학생이 양 지역의 가교가 되기 위한 커리어 지원’의 핵심 성과로 커리어 교육용 비디오 교재 “영상으로 배우는 커리어-한일 학생이 전공 언어를 살리기 위해-”을 제작하였다. 본고에서는 이 비디오 교재의 제작 과정, 그리고 개요와 활용 방안을 보고하고자 한다. 제작 과정에 대해서는 후속 시청각 교재 제작에 참고가 될 수 있도록 상세하게 설명하였으며, 교실 수업에서의 활용, 자택에서의 자율학습용 교재 활용에 관해서도 제시하였다.

이를 통해 한일 학생들의 전공 언어를 살린 진로 선택에 대해 전문교육에서 활용할 수 있음을 보인다.

주제어: 전공 언어, 커리어 지원, 비디오 교재, 제작 공정, 활용법안

* 本研究は2019年度-2022年度科学研究費基盤研究(C)研究課題番号19K02875(研究代表者:松崎真日)の助成を受けて行われている。

** 福岡大学 人文学部 教授、韓国語教育学(第1著者)

*** 名古屋商科大学 国際学部 教授、日本語教育学(交信著者)

**** 極東大学校 人材開発大学 グローバル文化コンテンツ学科 教授、日本語教育学(交信著者)

1. はじめに

本研究の大きな枠組みは、民間レベルでの相互理解とその質の向上が期待される現代社会において、その社会的要請に応えるための「日韓で学ぶ韓国語専攻・日本語専攻の学生が両地域の架け橋となるためのキャリア支援」である。日本と韓国は、政治・文化ともに交流の歴史が深く、日本で韓国語や韓国文化を学ぶ学生、韓国で日本語や日本文化を学ぶ学生も昔から多いにも関わらず、これらの人材が有意義に活躍するための政策や大学における体系的な進路支援が確立されているとは言い難い。そしてそれが故に進路に関して学生個人による自助努力に委ねられてきている現状がある。この課題の解決に向けて、日韓の学術・文化交流の中心を担っている筆者らが、①その実態を明らかにした上で、②モデルとなるカリキュラムとビデオ教材を開発し、③誰にでも活用可能な形で公開することで、日韓における人材活用の可能性を広げるとともに、日本および韓国に対する社会文化的理解の向上に寄与することを目指している。

これまでに①に関して、日本の韓国語専攻の日本人学生、および韓国の日本語専攻の韓国語学生が就職活動に関してどのような認識を持っているのかについて、その実態と問題点を明らかにし(松崎・磯野・検校2019, 2020)、②に関しては当該学生達に対して、どのようにキャリア支援を充実させていくことが必要なのかという点について、キャリア教育や学生の現状の問題点とこれらを解決するための教材制作を取り上げ、理論研究、および教材のシナリオの部分的な公開、枠組みの報告を行ってきた(松崎・磯野・検校2021a, b, 2022)。①、および②は、ビデオ教材の制作に向けた基礎的研究である。

学部における専門教育をキャリア支援の観点から充実させる必要性は、「進路を意識させる授業の実施」、「学生の視野が広がる情報・機会の提供」、「学部教育で活用できるビデオ教材の制作」という観点から、松崎・磯野・検校(2019, 2020)で既に論じている通りである。具体的には、現在の状況として、日韓の言語専攻の学生達はその専攻を生かした進路につけているとは概して言い難く、またコロナ禍の状況も複雑に絡みり、キャリア支援は喫緊の課題と言うことができるだろう。とりわけ、視聴覚教材に関しては、学生や教員が場所を選ばずに利用することができるだけでなく、副教材として活用する場合には、授業での導入として、概論的な内容の理解や復習に役立てられるといった利点が度々報告さ

1) 一例として、日韓両言語の専攻者が、これまで就職先として考えることが多かった 宿泊業、旅客業に大きな影響が出ていることが挙げられる。また、遠隔授業に対応できる教材(Web活用による映像教材等)の必要性も高まって来ており、専攻におけるキャリア支援の教育的枠組みの検討は、緊要の課題であるといえる。

れている(磯野・西郡2017, 磯野2020)。本教材は、現代社会では多くの人がアクセスしている動画共有サイトであるYouTubeを活用した本格的な視聴覚教材(ビデオ教材)であるが、既存の同様のツールを使用した教材は提供が開始されているものの新しい試みであり、西郡・磯野(2014)、磯野・西郡(2019)等、まだ数少ないのが現状であり(図1,2参照)、当該研究テーマに関する視聴覚教材の制作はない。



<図1> 『東京の言語景観ー現在・未来ー』
(西郡・磯野2014)



<図2> 『言語景観で学ぶ日本語』
(磯野・西郡2019)

以上を踏まえ、本研究の目的は、既述の③に関するものであり、日韓の学生が専攻言語を生かした進路を選択できるよう、学部教育の中で当該学生達の意識の向上や情報提供の機会を設けるためのキャリア教育用ビデオ教材『映像で学ぶキャリアー日韓の学生が専攻言語を生かすためにー』の制作の工程、ビデオ教材の概要、公開方法といった全容の報告である。すなわち、本研究の学術的な意義は、本研究のテーマそのものが萌芽的である中、ビデオ教材の全容を公開・共有することで、理論的枠組みと内容の可視化を試み、実際にビデオ教材を使用する教員・学習者の具体的な活用を可能にし、かつ促進する狙いがある。

2. ビデオ教材制作の工程

本ビデオ教材の完成までには、調査、制作、完成、そして公開という過程があり、数年

間に渡るプロジェクトとして進められた。その過程は連続したものであり、また多岐にわたるが、ここでは、その過程を工程として区分して説明することで、本ビデオ教材の制作過程を明らかにしたい。またあわせて、このようなビデオ教材や視聴覚教材の制作の一助となる参考資料としたい。

次の<表1>は、本ビデオ教材の制作過程を10の工程に分け示したものである。

<表1> 『映像で学ぶキャリアー 日韓の学生が専攻言語を生かすためにー』の製作工程

| 番号 | 主眼点 | 取組内容 | 時期 |
|----|--------------------------|--|-----------------|
| ① | 就職意識調査方法の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査地域 ・調査対象 ・質的調査/量的調査 ・対面型/非対面型 ・調査期間 | 2019/4~2019/6 |
| ② | アンケート項目の選定、アンケート調査サイトの制作 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目の選定 ・日韓両言語によるアンケート調査サイトの制作 | 2019/7~2019/8 |
| ③ | アンケート調査実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・調査協力者への依頼 ・問い合わせへの対応 ・アンケート実施 | 2019/9~2019/10 |
| ④ | 調査結果の分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・選択式回答の集計 ・自由記述解答に対する分析 ・データの解釈 | 2019/11~2019/12 |
| ⑤ | ビデオ教材の理論的枠組みの構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の位置づけと目的の設定 ・内容提示方法の設定 ・公開方法の決定 ・制作協力業者の調査 | 2019/12~2020/11 |
| ⑥ | シナリオ執筆 | <ul style="list-style-type: none"> ・草稿執筆 ・推敲 | 2020/12~2021/11 |
| ⑦ | インタビュー対象者選定 | <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー対象者へのコンタクトと説明および依頼 ・勤務先への依頼状送付 | 2021/12~2022/4 |
| ⑧ | 撮影 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本(福岡)での撮影 ・韓国(ソウル)での撮影 | 2022/5~2022/8 |
| ⑨ | 編集 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作協力会社の支援 ・字幕作成 | 2022/8~2022/11 |
| ⑩ | 公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・協力者の事前確認 | 2022/11 |

本ビデオ教材の製作工程は①から⑩までの10の工程に区分することができる。実際には一つのプロジェクトであるため個別独立したものとは言えないが、ここでは各過程での主眼点を基準にし、10の工程に区分して順に説明していくこととする。

工程①は、就職意識調査方法の設定である。工程①では、本ビデオ教材のサブタイトルにも入っている「日韓の学生が専攻言語を生かすために」にどのような内容が必要であるかを調査する方法について検討し、設定した。検討項目は、調査地域、調査対象、調査方法(質的調査/量的調査、対面型調査/非対面型調査)、調査期間である。約3ヶ月をかけて慎重に検討を行い、時間的條件、費用的條件の面で実現可能性があり、分析に耐えるデータの質と量を確保可能な調査方法を設定した。具体的には、日韓両国で韓国語または日本語を専攻する大学生のうち進路が決定している4年生を対象にアンケート調査を実施することとし、アンケートは客観式を主としつつも、自由記述欄を充実させることで、客観式調査では補足しにくい大学生の意識も把握できるよう努めた。なお、調査はインターネットのアンケートフォーム²⁾を活用して実施した。これは日韓両国で調査を実施すること、対象となる韓国語や日本語を専攻として持っている大学が両国に多数あることから、調査者が直接アンケートに赴くことが困難であったことに加え、一定のデータ量を確保するためには非同期的な調査方法が適しているというのも理由であった。調査期間として2019年9月~10月の2ヶ月を設定することとした。

工程②は、アンケート項目の選定とアンケート調査サイトの制作である。この工程では、日韓の学生が専攻言語を生かした就職ができているか、また専攻を生かすということについてどのような考えを持っているか、進路選択に影響を与えるものはなにかといった調査項目について、質問の文言、選択肢の種類、複数回答の可否、質問の順番などについて検討を行い決定した。また、研究同意書についても検討し、誤解の生じない記述になるよう文言の検討を行った。その後、Google Formsを利用し、日韓両言語で同一内容になるようアンケートページを2か国語で作成した。この工程は2019年7月から8月までの約2ヶ月間に進められた。

工程③は、アンケート調査の実施である。著者らのネットワークをもとに、日韓両国で韓国語または日本語の専攻教育を行っている大学教員にアンケート調査協力の依頼を行い、各大学で進路が決定している4年生学生を対象に調査を行った。アンケート実施の過程では、入力に関する技術的な問題、質問の意図に関する問い合わせなどがあり、これらの問い合わせには随時対応し、円滑なアンケート調査が実施できるよう努めた。アンケート実施期間は、2019年9月~10月の2ヶ月間であった。

2) 具体的にはGoogle Formsを利用し、日本で韓国語を専攻する74名(8大学)と、韓国で日本語を専攻する102名(12大学)を有効回答として集計した。この調査の詳細については、松崎・磯野・桜校(2020)で詳しく報告している。

工程④は、調査結果の分析である。アンケート期間終了後の2019年11月~12月に集中的に集計・分析を行った。アンケート調査は4年生を対象に実施協力を依頼したが、アンケートの過程で1~3年次の学生や、韓国語や日本語を専攻していない学生が回答する場合もあった。そのため、この工程の最初に有効回答の判別を行った。その上で有効回答について、客観式調査結果の集計と、自由記述文の内容整理を行い、研究データとして活用できる形にまとめた。また、データが意味するところについて議論を行った。この工程で得られた調査結果と著者らの解釈は、松崎・磯野・検校(2019)および松崎・磯野・検校(2020)で報告を行った。

工程⑤は、ビデオ教材の理論的枠組みの構築である。工程④で把握されたデータを基に、日韓の専攻学生向けのキャリア教育教材としてどのような教材が適切であるかの検討を行った。具体的には、a.教材の位置づけと目的、b.内容提示方法、c.公開方法、d.制作協力業者について検討を行った。

a.教材の位置づけと目的については、学生の視野を広げるための副教材または自律学習教材とすることに決定した。これは、現状の専攻教育においてキャリア教育そのものをテーマとする科目があまりないため、様々な科目のなかで取り上げる学習内容として取り扱うことが現実的であること、また授業で取り上げる機会がない場合でも学生自らが活用できる教材があるとよという判断によるものである。副教材や自律学習教材としては簡便に利用できる形態であることが重要であることから、動画を利用したいいわゆるビデオ教材として位置づけることとした。また、工程④で把握したデータから学生の関心がBtoC、特に観光関連業界に極端に偏っていることが判明したことから、企業間取引(BtoB)業種に焦点を当て、学生の視野を広げることを目的として設定することにした。

b.内容提示方法については、オープニングに続き、BtoBについての説明、そしてメインとして、日韓で言語を専攻し現在専攻を生かした仕事をしている社会人に対するインタビュー映像を置き、最後にクロージングを行う構成にすることにした。パート2でBtoBについての説明を行うのは、本教材を使用する学生の専攻が日本語または韓国語であるため、特に1~2年次の就職活動開始前の学生たちにおいて、ビジネス領域の知識が十分でない可能性を考慮したためである。日本語または韓国語専攻という共通点はあるとはいえ、ビジネス領域に関する知識は学年や興味・関心によって違いがあることもあり、幅広い視聴者に対応できるよう配慮を行った。また、言語を専攻した元学生であり、現在日韓に関する仕事に携わっている社会人へのインタビューを中心的なコンテンツに位置付けたのは、本教材の位置づけが副教材や自律学習教材であること、また何らかの知識を注入す

るというより、視野を広げることに目的があるためである。授業時間に教室で使用する場合は、専攻科目内容の専門家がいることから、日韓の間で仕事についている社会人のインタビュー映像は、教育資源の提供として位置づけることが可能であること、また、自律学習として視聴する学生にとっては、数年後の自身の姿を想起させ得る社会人が語る内容は、分かりやすさだけでなく、自分自身に関連付けて視聴し理解しやすいという点で、利点があると判断した。

ただし、本教材では、単にインタビューを並べるのではなく、インタビューに入る前にBtoBの概念を説明するパートを入れること、日韓両国の社会人へのインタビューを併置し、日韓がともに国際社会の一員であり関係が深いことを意識できるように構成することにした。また、本教材を使用する学生の言語習得の段階も多様であることが想定されるため、インタビューには日韓両言語で字幕を付けることとした。なお、時間配分についても検討し、授業で取り扱える時間内に収められるよう、30分程度で制作することとした。

c.公開方法であるが、YouTubeにアップロードし、日韓の大学で言語を専攻する学生はもちろん、日韓両国でそれぞれの言語を学習する学生、さらには他言語も含め外国語を学習する全世界の学生も利用できるよう無料で視聴できる形で公開することにした。

d.映像制作の技術的な部分は、この種のビデオ教材の制作で実績がある業者の協力を仰ぐこととした。実績、スケジュール、予算などの検討を行い制作会社の選定を行った。

以上の工程⑤は、この間コロナ感染症の拡大があったことによる多少の研究スケジュールの遅延期間も含め、2019年12月から2020年11月までおよそ1年間をかけて行われた。

次に、工程⑥についてである。この工程は、シナリオ執筆の段階である。ビデオ教材は、次の<表2>の通り、4部構成になっている。

<表2> ビデオ教材の構成

| パート | タイトル | コンテンツ |
|-----|----------|---|
| 1 | オープニング | 本ビデオ教材の目的の提示 |
| 2 | ビジネスの形態 | 背景としての日韓ビジネスの現況と概念の提示 |
| 3 | 日韓の仕事の現場 | (1)日本の仕事の現場 ①韓国系製鉄会社(営業職) ②人材コンサルティング会社(コンサルティング・営業職) |
| | | (2)韓国の仕事の現場 ①日系玩具会社(渉外・営業職) |
| 4 | エンディング | 専攻言語を生かすキャリアの展望 |

4つのパートのうち、第1パートのオープニング、第2パートのビジネスの形態、第4パートのクロージングについては、先にシナリオの執筆に着手した。なお、第3パートについては、社会人に対するインタビューになっているため、この段階では質問項目の立案のみを行った。インタビュー部分については、インタビュー協力者の考えを聞くものであるため、著者があらかじめシナリオを書くことはしなかった。また、この間コロナ感染症の拡大が続き、日韓の往来が難しくなったことにより、撮影スケジュールを延期せざるを得ず、2020年12月から2021年11月にかけての期間は作成したシナリオの推敲を繰り返し行った。

工程⑦は、インタビュー対象者の選定である。本ビデオ教材ではBtoB業種に着目した情報を提供する内容であることから、BtoBの仕事に携わっている社会人の選定を行った。その際、本教材の視聴者として現役大学生を想定しているため、現役大学生が親近感を持って見られるよう、また近い将来の自分の姿を想像することができるよう、20代後半の社会人に協力をお願いすることとした。選定においては、著者らのネットワークを活用し、日本で韓国語を専攻した社会人で韓国の製鉄会社の日本現地法人で働いている男性と、日本の人材コンサルタント会社で韓国地域を担当している女性を選定した。また、韓国で日本語を専攻した社会人として日系玩具会社の韓国現地法人で働いている男性を選定し、取材協力の依頼を行った。

依頼内容としては、インタビュー映像はYouTubeにアップロードし、また、会社名も明示することから、工程⑥で作成したシナリオをもとにビデオ教材の目的や使用場面などを詳しく説明した。また、勤務先の許可を得るために、必要に応じて依頼状を送付し、協力・承認を得た。本工程は2021年12月から2022年4月にかけて進められた。

工程⑧は撮影である。撮影は日本と韓国で行い、日本では2022年5月に福岡で撮影し、韓国では2022年8月にソウルで行った。撮影には、進行役としてプロのアナウンサーに出演を手配し、アナウンサーのナレーションとインタビューの撮影、また背景に使用する映像等を撮影した。なお、撮影前日までに、撮影場所の調査も行き、万端の準備を整え撮影を行った。カメラや音声などは工程⑤で選定した映像制作会社に依頼したが、著者らが撮影現場に立ち会い、必要に応じ指示を出した。

工程⑨は編集である。撮影した映像をつなぎ合わせ、音楽などを配置するとともに、音声に字幕を付けていき、一編のビデオ教材として完成させる作業である。著者と制作会社の間で幾度もやり取りを重ね、最終的な教材が仕上がった。2022年8月から11月までの期間に編集作業を行った。

工程⑩は公開であるが、それに先立ちインタビュー協力者およびその勤務先に工程⑨

で仕上がった映像を確認してもらい、公開の許諾を得て、YouTubeにアップロードした。

以上が2019年4月から2022年11月までにかけて行われたビデオ教材『映像で学ぶキャリア－日韓の学生が専攻言語を生かすために－』の制作から公開までの過程である。次の<図3>~<図6>は完成したビデオ教材の4つのパートの一部を示したものである。



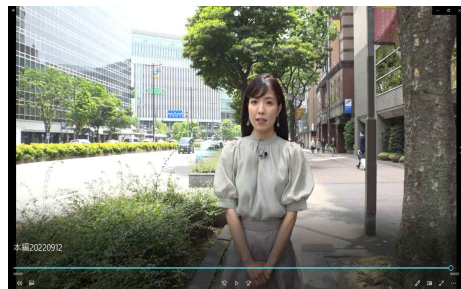
<図3> 第1パート「オープニング」



<図4> 第2パート「ビジネスの形態」



<図5> 第3パート「日韓の仕事の現場」



<図6> 第4パート「エンディング」

3. ビデオ教材の活用方案

本教材は、先述した通り、大きく二つの活用場面を想定している。一つ目は、日本や韓国の大学で韓国語・日本語を学ぶ専攻学生向けの授業で活用する副教材としての活用であり、二つ目は、自律学習向けビデオ教材としての活用である。どのような活用方法が可能かを示す。

3.1. 専攻学生向けの授業で活用する副教材として

ここでは、日本語を専攻する学生向けの科目を想定したい。次の表は本ビデオ教材を専攻科目の副教材として使用する場面を示すものである。

<表3> 専攻科目で副教材として活用する場面

| | |
|------|--------|
| 科目 | 専攻科目 |
| 受講学年 | 1~2年次生 |
| 授業形態 | 対面授業 |

専攻として日本語や日本関連科目を学ぶ学生向けの授業では、卒業を見据えた専攻におけるキャリア教育の一環として本教材を活用することが想定できる。本教材を1~2年次科目で活用することで、学生の視野に入っていないBtoBというビジネスの形態について知識や関心を広げることが可能になるといえる。

授業での取り上げ方であるが、授業の冒頭で、専攻言語である日本語を生かすことができる職業を挙げてもらった後、BtoBとBtoCというビジネス形態の違いについて説明を行い、ビデオの視聴を行う。その際、グループで映像の内容の確認と意見交換を行うことで、インタビューで取り上げられた会社の関連業界や同業種の日韓それぞれの企業などにも関心が広がっていく。例えば、日本語を専攻し、日系の玩具業界で働く社会人のインタビュー映像視聴後には、アニメーションなどのエンターテインメント業種や、漫画などの出版業などに話が及ぶ可能性は高い。また、韓国企業の日本支社についても、立場を入れ替えて考える経験をすることができる。

通常日本語の授業や、日本社会や文化の授業においては、キャリアを取り上げて授業を行うことが準備等の理由で容易ではないと思われるが、本ビデオ教材を活用することで、既存の科目の中でキャリアについて考え、視野を広げるきっかけを与えることができるといえよう。

授業時間等にもよるが、ビデオ教材はおおよそ30分構成されているため、一回の授業時間で全編を通して視聴させることも可能であるし、時間配分によりインタビュー映像を選択的に活用することも可能である。選択的に活用する場合は、数回の授業の材料として活用することが想定される。また、視聴後の活動として、専攻言語である日本語を使用する職業について調べ報告する活動や、授業にゲストスピーカーとして卒業生を招き、本教材のパート3のテーマでもある「仕事の現場」について教室でインタビュー実践を行えば、映像

教材と、教室での日本語授業を、キャリアという題材でリンクさせることができるだろう。

本教材は、このように、キャリア教育を既存の専攻科目(韓国における日本学・日本語教育科目、日本における韓国学・韓国語教育科目)に導入するための副教材としての使用を想定している。

3.2. 自律学習向けビデオ教材として

本ビデオ教材はYouTubeで無償公開している³⁾。これは、韓国や日本の大学で日本語や韓国語を学ぶ学生、さらには他の外国語を学ぶ学生の自律学習用教材として、広く活用されることを想定しているためである。

<表4> 自律学習用教材として

| | |
|------|---------------------------|
| 対象 | 韓国や日本で日本語・韓国語・その他外国語を学ぶ学生 |
| 視聴方法 | 自宅等での YouTube 視聴 |
| 学習形態 | 自律学習 |

<表4>に示したように、自律学習用教材としては、日本語や韓国語を学ぶ学生、あるいは他の外国語を学ぶ学生も対象になる。これが可能になるように、本教材は、基本的に日韓両言語による字幕を付けている。このことにより、韓国語や日本語さえ分かれば、誰もが利用できるようになっている。韓国で日本語を学ぶ学生はもちろん、韓国語の字幕があるので、韓国や日本で諸外国語を学ぶ学生であっても視聴が可能である。専攻言語を生かしたキャリアに関心がある学生であれば、学習に役立てることができる。

視聴方法についても、YouTubeでの無償公開であるので、YouTubeにアクセスが出来さえすれば、多くの国で自宅から視聴することができる。近年は、検索する際に動画検索を行うことも少なくないため、YouTube上にアップしたコンテンツは活用可能性がますます高まっている。

自律学習においては、本格的に自学書を準備して取り組む形態もあるであろうが、多くの場合はまずは興味や関心のあることについて、検索し、簡便に情報を得ることになる。ある程度情報や知識が蓄積されたのちに本格的な自律学習が始まるとするならば、YouTubeの検索からアクセスすることができる本教材の利点は大きいといえる。本教材の

3) 「映像で学ぶキャリア 日韓の学生が専攻を生かすために」<https://www.youtube.com/watch?v=AfxzYV1C4Fs>

視聴をきっかけに、専攻言語を生かしたキャリアについて、本格的な自律学習へと発展するならば、本教材の目的は達成されたものといえる。

以上、筆者らが想定している活用方法を二つ示した。もちろんこの他にも、大学進学時の専攻選択の材料にもなりうること等、様々な活用可能性が考えられる。大学での学び、大学卒業後の仕事については、国内であっても高校生をはじめ大学の外にいる者からは見えにくい。海外からはなおさらであろう。留学生数が韓国、日本ともに年々増加傾向にあることを踏まえるならば、留学を検討している海外の学生に対する情報提供という意味でも、本ビデオ教材のようなアクセスが容易な教材は有効であると考え。その他にも様々な活用法があると思われるが、それは今後の利用法を注視していく中で、また別の機会に取り上げたい。

4. おわりに

本稿では、日韓の言語専攻学生のキャリア支援に特化した教育用ビデオ教材『映像で学ぶキャリア—日韓の学生が専攻言語を生かすために—』に関して、このような萌芽的な取り組みと成果を広く共有することを目的として、その制作と公開について報告した。

さらに、本稿では、実際にビデオ教材を使用する教員・学習者の具体的な活用を可能にし、かつ促進する意図のほか、ビデオ教材の公開による「活用」に関わる意義に焦点を当て論じたが、ビデオ教材制作の工程の公開による「教材制作支援」に関わる研究意義もあると言える。教師または教材制作者が本研究の成果を踏まえて教材制作に臨む上で新しい方法論を、制作と公開について報告することを通して明らかにした。このようなビデオ教材や視聴覚教材の制作の一助となる参考資料として、「教材制作支援」に関わる研究意義も示すことができたと考え。

テーマ全体としての核となっている「韓国語・日本語を専攻する日韓の学生のためのキャリア支援研究」そのものは、まだ新しい教育観点、手法である。具体的には、YouTubeにビデオ教材を公開しているが、これは、研究成果を社会に還元するという点で、重要な意義を持つ。世界のどこからでもアクセスすることができ、無料であるので、誰でも活用可能である。以上のように、研究成果をそこだけに留めておくのではなく、自由なアクセスを可能にすることにより、教材として、更に自律学習への活用を通して次のステップへの展開を視野に入れている。

報告の詳細は、制作の工程、ビデオ教材の概要と公開方法活用法案といった主要内容に及んだ。制作の工程については、後続の同様の視聴覚教材制作の一助になるよう詳細に説明を行い、また、教室での授業時の教材活用と、自律学習用の教材活用について提案を行った。さらに、これによって、日韓の学生の専攻言語を生かした進路選択に関して、学部教育の中で当該学生達の意識の向上や情報提供の機会としてビデオ教材が活用できることを示した。

今後は、オンライン上に公開したビデオ教材を活用した教育実践を積み重ねながら、そこから得られる知見を分析し、活用方法の検討と教育や研究での展開を進めていきたい。

【関連ウェブサイト 及び 資料】

磯野英治・西郡仁朗 監修(2019) ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』、2017年度~2019年度科学研究費若手研究(B)研究課題番号17K13490「言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の研究」(研究代表者:磯野英治)(https://youtu.be/qB0-eSC_yUQ)
西郡仁朗・磯野英治 監修(2014) ビデオ教材『東京の言語景観-現在・未来-』、東京都アジア人材育成基金(https://www.youtube.com/watch?v=NHV338g_NB0).
文部科学省中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」、文部科学省中央教育審議会 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm, 2022年12月31日閲覧)

◀ 参考文献(Reference) ▶

李孝仙(2013), 「일본어학부제에서의 전공트랙 결정 과정에 관한 연구」, 『日本語教育研究』第26輯, 韓国日語教育学会, pp.131-144. UCI: G704-SER000010190.2013..26.010
李奎台(2019), 「韓国人女子留学生の役割意識と就職決定-ある大学4年生に対するインタビュー調査-」, 『日本語・日本語教育』第3巻, 立教大学日本語教育センター, pp.49-63.
磯野英治(2020), 『言語景観から学ぶ日本語』, 大修館書店, pp.1-160.
磯野英治・西郡仁朗(2017), 「ビデオ教材『東京の言語景観-現在・未来-』の公開と教育実践」, 『日本語教育』166号, 日本語教育学会, pp.108-114.
大木理恵(2007), 「「ビジネス日本語」授業報告 —全学日本語プログラム800(超級)レベルにおいて」, 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』33, 東京外国語大学留学生日本語教育センター, pp.169-177.
金菊熙(2020), 「韓国内の韓国語教育としての文化教育の研究動向と日本の大学における韓国語教育の現状について-松山大学の初習言語「韓国語」の事例を中心に-」, 『言語文化研究』第40巻第1号, 松山大学, pp.101-140.
検校裕朗(2017), 「日本語集中教育(몰입교육)の実践と成果-2014年度 Intensive Japanese Language Programでの改善を中心に-」, 『日本学報』第112輯, 韓国日本学会, pp.1-21.

- _____ (2021), 「韓国における日本語教育の成果と今後の展望—韓国日語教育学会(KAJE)(20周年期:2019~20年)における会長経験者のナラティブ分析をもとに—」, 『日本語教育研究』第54輯, 韓国日語教育学会, pp.39-56. DOI <http://dx.doi.org/10.21808/KJJE.54.03>
- 齊藤明美・倉持香(2019), 「日本語学習者の就職に対する意識と企業が求める人材—韓国におけるアンケート調査及びインタビューの結果を中心に—」, 『日本語教育研究』第47輯, 韓国日語教育学会, pp.107-126. DOI: 10.21808/KJJE.47.07
- 松崎真日・磯野英治・檢校裕朗(2019), 「日韓の韓国語専攻・日本語専攻学生の就職活動に関する認識」, 『韓国日語教育学会2019年度 第36回国際学術大会発表論文集』, 韓国日語教育学会, pp.109-112.
- _____ (2020), 「日韓の日本語専攻・韓国語専攻学生の就職活動に関する認識—キャリア支援の基礎調査—」, 『日本語教育研究』第53輯, 韓国日語教育学会, pp.77-93. DOI: <http://dx.doi.org/10.21808/KJJE.53.05>
- _____ (2021a), 「日韓の言語専攻学生のキャリア教育用ビデオ教材制作の背景と枠組み」, 『日本語教育研究』第56輯, 韓国日語教育学会, pp.183-196. DOI: <http://dx.doi.org/10.21808/KJJE.56.11>
- _____ (2021b), 「ビデオ教材『映像で学ぶキャリア—日韓の学生が専攻言語を生かすために—』のシナリオと制作」, 『韓国日語教育学会韓国日語教育学会2021年度第40回国際学術大会発表論文集』, 韓国日語教育学会, pp.41-44.
- _____ (2022), 「ビデオ教材『映像で学ぶキャリア—日韓の学生が専攻言語を生かすために—』の全容の報告」, 『韓国日本研究団体 第11回 国際学術大会(韓国日本学会 創立50周年 第104回) Proceedings』, 韓国日本研究団体(韓国日本学会), pp.287-289.
- 宮崎道子監修(2016), 『人を動かす! 実戦ビジネス日本語会話』, スリーエーネットワーク, pp.1-192.
- 安井智恵・宮前耕史(2009), 「キャリア教育をめぐる日韓比較に関する一試論—啓明大学校日本学科(韓国)「ビジネス日本語」における実践から—」, 『岐阜女子大学紀要』38号, 岐阜女子大学, pp.83-94.

<ABSTRACT>

**Production and Release of a Video Teaching Material,
“Careers through Video: Japanese and Korean Students Making
the Most of Their Major Languages.”**

Matsuzaki, Mahiru (Fukuoka Univ.)

Isono, Hideharu (Nagoya Univ. of Commerce & Business)

Kenko, Hiroaki (Far East Univ.)

Matsuzaki, Isono, and Kenko (2019, 2020, 2021a, b, 2022) have conducted a survey and analysis of the current situation regarding career education and career paths of Japanese and Korean language students, clarified the problems, and then developed a plan to enhance undergraduate professional education from the perspective of career support. We then discussed the significance, theoretical research, scenario development, and framework for the production of educational video materials to enhance undergraduate professional education from the viewpoint of career support.

The production process, theoretical study, scenario creation, and framework of the video teaching materials for career education, “Career Support for Korean and Japanese Majors in Japan and Korea to Build Bridges between the Two Regions,” which is the core result of the major theme of this study, “Career Support for Korean and Japanese Majors in Japan and Korea to Build Bridges between the Two Regions,” have been discussed. –The report included the production process, an overview of the video materials, and a bill for their utilization. The production process was explained in detail to assist in the production of similar audiovisual materials in the future. He also proposed the use of the materials in the classroom and for self-directed learning.

The video materials can be used as an opportunity to raise awareness and provide information to Japanese and Korean students in their undergraduate education regarding career choices based on their major language.

Keywords : language of study, career support, video materials, production process, utilization bill

■ 투 고 : 2022. 12. 31.

■ 심 사 : 2023. 01. 15.

■ 심사완료 : 2023. 02. 05.